NS 中国遊商が新年互礼会を開催

中国遊技機商業協同組合は1月13日、広島市中区のリーガロイヤルホテル広島で、平成24年新年互礼会を開催、広島県遊協の池田仁志理事長をはじめとする来賓など約100名が参集し、新年の訪れを祝った。また、互礼会前には定例理事会およびセキュリティー・機械対策の合同委員会を別室で開催。そこでは、さらなる遊技機点検スキルのレベルアップを図ることを再確認したほか、年度内にスタートさせる予定で検討している流通時の本人確認を徹底する顔・指紋認証システム運用に関する打ち合わせが行われるなどした。

互礼会の冒頭に挨拶した松原陽輔理事長は、「震災から10カ月が経ち、その間国内だけでなく、世界中から多くの支援があった。我々としても、出来る限りの支援をしていく」と、今後も被災者支援を継続していく考えを示し、理解を求めた。また中古機流通制度の信頼回復を改めて訴えた松原理事長は、「昨年は中古機流通制度の信頼を損ねるような出来事があった。今年は今まで以上に、責任を全うし、健全な中古機流通制度の確立に尽力頂きたい。組合も相互扶助の精神で、業界の発展に努力していく」と語るなどした。

乾杯を行った広島県遊協の池田理事長は、「業界には難しい問題が山積している。この中で自分達の私利私欲を主張ばかりしていると、業界が沈んでいくことになるだろう。様々な立場があるだろうが、こういう時こそ心を一つにして、業界発展に向けた努力していくことが大事だ」と協調を呼びかけた。

広島県遊協
池田仁志理事長

松原陽輔理事長

NEWS SCRAMBLE

ニュース スクランブル

NS 業界14団体が新年の賀詞交歓会

業界14団体が集う新年交歓会、「パチンコ・パチスロ産業賀詞交歓会」が1月27日、都内港区の第一ホテル東京で行われた。式典には主要団体の代表を始め、警察庁生活安全局保安課の加藤達也課長、玉川達也課長補佐、リカバリーサポート・ネットワークの西村直之代表ら、大勢の業界関係者が臨席した。

冒頭に出席者を代表して挨拶を行った全日遊連の原田實理事長は、昨年を振り返り東日本大震災による被災者の苦難に触れるとともに、復興に対して業界団体が団結して支援に動いたことについて謝意を示し、大衆娯楽としての発展に向けて努力していきたいなどと語った。日工組の石橋保彦副理事長は「天変地異には備えるだけしかできないが、今、業界に吹いているアゲインストの風は自然現象ではない。英知を集めて健全営業を進めていく」などと業界健全化に向けて強い決意を表明。一方、日電協の里見治理事長は、昨年の業況について「前々年度、前年度からみれば販売台数ものび、お客さんにも喜んでもらえている」と手応えを口にしながらも「しかしちょっと行き過ぎなところもなくはないのかな、というようなことも考えている」と言及し、改めて健全娯楽の推進を強調した。

来賓では、警察庁生活安全局保安課の加藤達也課長が挨拶。不正機問題やのめり込み問題など健全化を阻害する要因を挙げながらも、1円パチンコ拡大や低射幸性遊技機の開発などの方向性といった業界側の取り組みを評価するとともに、健全な大衆娯楽化への努力を続けてほしいなどとした。

賀詞交歓会に集まった業界14団体の代表者

RSN
西村直之代表

警察庁保安課
加藤達也課長

全日遊連
原田實理事長